



第12回「伝統と先端と」展を開催

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 関野 昇平 (石川県派遣)



パリ日本文化会館の外観

「伝統と先端と」展の概要

クレアパリ事務所では、2013年度からの継続事業として、「伝統と先端と」と銘打った企画展を開催しています。2024年度は、2023年度に引き続き、パリとディジョンの2都市で実施しました。エッフェル塔のすぐ隣に立地するパリ日本文化会館（11月5日から23日）をパリ会場とし、ディジョン展示・コンベンションセンター（10月31日から11月3日）を地方展会場として、日本の伝統工芸品などの紹介とその展示即売を行いました。伝統の技術と革新性を融合した出展内容は現地でも高い評価を得ました。

今回で12回目を数える同企画展は、全国22自治体から約300点が出展され、日本の地域の多彩な魅力が披露されました。

出展自治体（22自治体）

青森県、山形県、東京都、新潟県新潟市、富山県、石川県金沢市、福井県、福井県福井市、福井県鯖江市、長野県、静岡県浜松市、三重県松阪市、三重県鳥羽市、滋賀県甲賀市、京都府、大阪府堺市、大阪府八尾市、兵庫県淡路市、岡山県高梁市、高知県、福岡県、熊本県熊本市

フランスで売れるを見極める

本企画展は、クレアパリ事務所が会場費用を負担し、展示・販売運営を実施します。そのため、参加自治体は、展示・販売品の搬送費用、搬送時の保険料、関税・付加価値税などの経費のみの負担で参加可能です。これにより、フランス市場への進出を目指す自治体や事業者にとって、コストパフォーマンスの高いプロモーション活動の場を提供しています。

さらに、展示会終了後には、商品の購買動向やフランス市場の傾向について分析した報告書を参加自治体に提供します。この報告書では、購入者の感想や購入に至らなかった方々のご意見、会期中の販売データがまとめられており、次回の出展や商品開発に役立つ具体的な改善ポイントを把握することができます。これにより、自治体や出展者はフランス市場のニーズや課題を理解し、マーケティング戦略をより効果的に構築することが可能となります。

本企画展は、単なる展示・販売の場にとどまらず、参加者にとって新たな市場の可能性を探る貴重な機会を提供します。現地での商品評価を通じて得られる知見を次



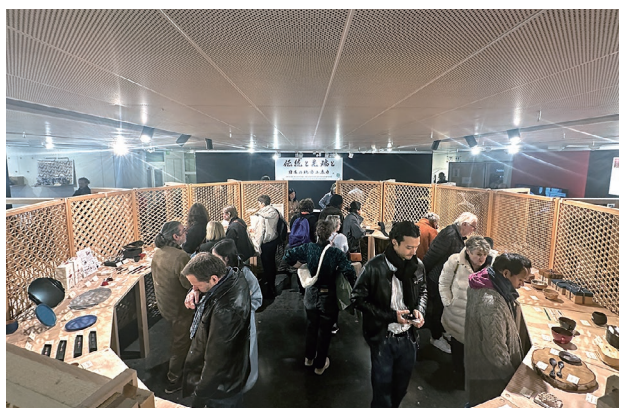
展示の様子（ディジョン）

の展開に生かし、日本の魅力をさらに広く世界に発信していく一助となるよう取り組んでおります。

売上傾向と購入者の反応

ディジョン展は、「ディジョン国際ガストロノミー（美食）展」への出展だったことから、食に関連する製品約100点を出品しました。日本製品として人気の高い包丁など、一部の商品が売り切れる結果となりました。これまでは、日本関連のイベントや施設へ出展することが多かったのですが、今回は初めての食品見本市での出展となり、必ずしも「日本」を目標にしていたわけではない来場者が、たまたま目にした商品を購入して下さったことに手ごたえを感じました。

パリ展では、客単価が高く、高額商品の売れ行きが好調でした。11月中旬から下旬にかけての開催と、クリスマスシーズンに近いこともあり、自分用だけでなく家族や友人への贈り物として商品を購入される姿が多く見受けられました。来場者からは「珍しいものが見つかるので今年もプレゼントを探しに来た」「去年売っていたアクセサリーは今年置いていないのか」といった声をいただきました。本企画展は、フランスの人々の間で着実に認知が広がりつつあります。



展示スペース（パリ）

ワークショップや講演会も開催

また、企画展に関連した事業として、パリ会場では日本の伝統工芸を身近に感じられる「箸研ぎ体験」や、海女の方による貴重な話が聞ける講演会など、5つのイベントを開催し、いずれもほぼ満席の盛況ぶりでした。参加者の皆さまは講師のお話真剣に耳を傾け、次々と質問が飛び交うなど、終始熱心な姿が印象的で、その情熱に私たちも感銘を受けました。



箸研ぎ体験の様子（パリ）

おわりに

日本の伝統産業は、近年、生産額や職人数が減少するなど、厳しい状況に直面していますが、その一方で、海外市場への進出を目指す事業者が増えており、新たな可能性が広がりつつあります。フランスをはじめとするヨーロッパ市場では、日本の伝統工芸品の繊細な技術や美しいデザインが高く評価され、注目を集めています。さらに、日本の伝統工芸が単なる商品の枠を超え、アートやライフスタイルの一部として受け入れられる動きも見られます。

本企画展では、海外進出を目指す事業者にとって、商品改良や新たな販路開拓のヒントを得られる貴重な機会となるとともに、職人たちが技術や商品に対する自信を深める契機にもなっています。

海外市場への展開は、地域産業の振興や若い世代への技術継承の観点からも大きな意義を持っています。日本の伝統工芸がフランスをはじめとするヨーロッパでさらなる展開を遂げられるよう、本企画展を通じて今後も継続的に支援してまいります。



商品を見つめる来場者（ディジョン）